

---

# 逃走屋

能美鷹哉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

逃走屋

### 【Nコード】

N1818W

### 【作者名】

能美鷹哉

### 【あらすじ】

この世には様々な『組織』が存在している。そして、様々な『力』が存在している。主人公は自称『根暗で、性悪なチキン野郎』とある事情から戦う事を止めた主人公。そんな主人公が立ち上げた逃走屋。果たしてこれから彼が進む道には何が待っているのか……。

## プロローグ（前書き）

この物語はフィクションです。  
登場する人物・団体・組織はすべて実在するものとは一切関係ありません。

自身の初作品となりますので、読める内容になっているか判断出来かねますが、どうぞ暇な時にでも目を通して見てください。

## プロローグ

入り組んだビルの隙間、その暗がりの中を足音も無く駆ける影がいる。

それは人の形を取ってはいるが、その速度は平原を駆け抜ける獣もかくやという程で走り、跳ぶ。

辺りにはすでに使われなくなって久しいのが目に見えて分かる程に荒んだ雑居ビル群に、放置され腐敗が進みきり最早臭いすら放たなくなっているゴミの残骸。明かりは等間隔に並ぶ電灯から微かに届く仄暗いと、ビルの隙間から僅かに覗く月明かりぐらいのものであり、この様な場所に人がいるのであれば、まず間違いなく正気を疑われるであろうことは想像に難しくない。

だが、もしこの様な場所に人がいるとすれば彼らはどのような目的があつてこの場所にいるのだろうか。

暗闇を駆ける影は、未だにその足を止めず迷いも無く走り続ける。

影はその背になにかをおぶる様に担いでいる。そして、その背に向け聞き取るのも困難な声で一言、

「しっかり捕まってる」

男の声でそう呟いた。

その直後。

影の男がまるで、時間が止まったかの様にぴたりとその足を止める。

そこは、何も無いただの円形の広場だ。

そう、まるで誰かが意図的に片付けた、とでもいう程に何も無い。

その中央で足を止めた男は辺りの暗がりに向け言い放つ、

「よお、そろそろ出てきてくれないんじゃねえの？」

すると、それまでは一切聞こえなかった足音が辺りのビル影から無数に響き渡り、そして男は完全に包囲された。

「こりゃあまた、ド派手な歓迎会を開いてくれたもんだな」

男はその口許に笑みを浮かべ、おどけるな口調で述べ、そして、更

にもう一度暗がり言い放つ。

「アンタも大変だな、俺みたいな野郎の対応を任せられちゃったみたいですよ？」

その言葉に応える様に、男の正面の暗がりから現れたのは身長が二メートルを軽く上回っている熊の様な男だ、と言えば陳腐に聞こえてしまうかもしれないが、その巨体を目にすればその様な表現があながち間違いではないことがうかがえるであろう。巨体の男はその身に、喪服とも思える様な黒色の艶の無いスーツを身に付けている。だが、一目見ればそのあまりの異様さに目を見開いて見入ってしまうであろう。男のスーツは内側からその筋肉の膨らみにより今にも弾けんばかりに盛り上がっていて、見る者に強烈な威圧感を与える印象がある。

そして、巨体の男がその無骨な口から言葉を発する。「ふむ、逃走屋・荻窪海斗。貴様が現場に自ずから姿を現したというのであれば、それぐらいの用心があっても致し方の無いことだ」逃走屋・荻窪海斗。それが影の男の正体だ。

「つつても、こりゃあ少し人数集め過ぎじゃねえの？ざっと二十人つてところか、そんな数の戦闘屋に囲まれちゃ、俺のチキンハートが砕けちまうぜ」

「相変わらずの減らず口だな。貴様の逃げ足を考えればこれでもまるで足りん事は明白だろうが」

巨体の男は肩をすくめ、嘆息するが、次の瞬間にはその眼光に殺意にも似た気配を漂わせていた。

「さて、些末な話はこれで終いだ。荻窪、大人しくその少女をこちらに引き渡せ」

少女とは海斗がその背におぶる様にして担いでいたものだ。

そして、その少女こそが逃走屋として海斗自身が二年ぶりに仕事を引き受けた原因とでもいうべき存在だ。「そいつはできねえ相談だな。アンタみたいな熊野郎にこいつのお守りは務まらねえよ」

「ふむ、ならば仕方あるまい。力づくで奪い取るまでだ」

「いいぜ、上等だ」

不適な笑みを浮かべ、そして海斗は、

「鬼ごっここの始まりだ」

軽い一言を告げる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1818w/>

---

逃走屋

2011年10月9日15時22分発行